2023年1月23日（月）
長池公園自然館第一会議室

アメリカの世界戦略

清水竹人

１．アメリカとは

イメージの中のアメリカ
イメージからその国を理解するのは難しい
↓
歴史を知る（国民性がその国の歴史をつくる）

２．歴史の中のアメリカ

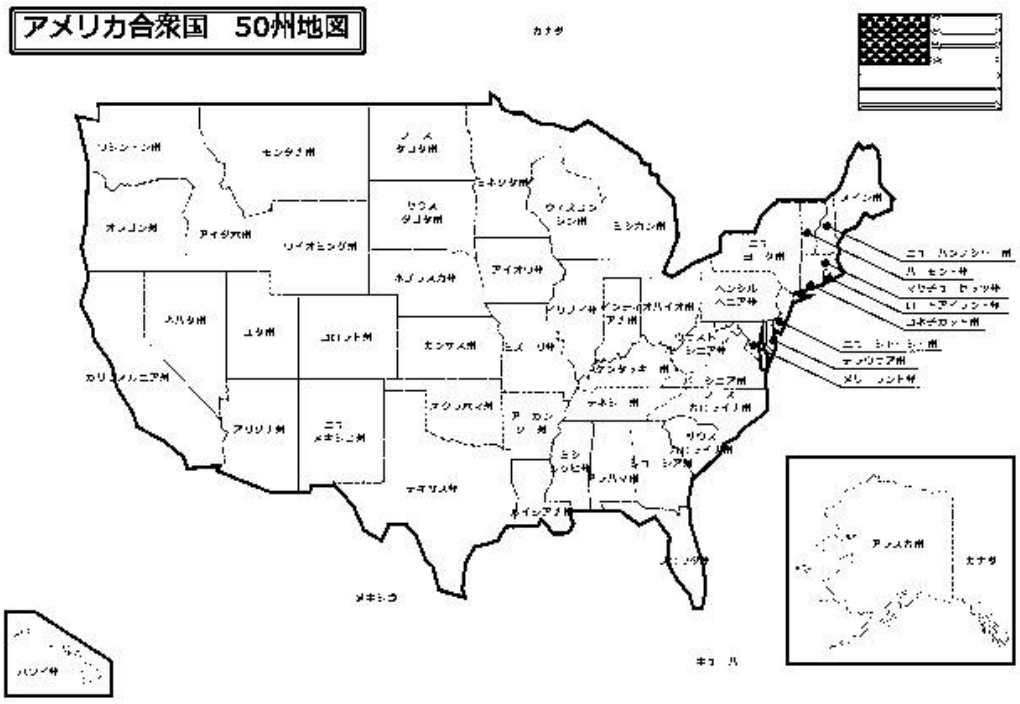
1492年　コロンブスの新大陸発見

1775～83年　独立革命（1776年 独立宣言、1788年 憲法制定）
1799～1815年　ナポレオン戦争
1914～18年　第一次世界大戦（1917年 参戦）
1939～45年　第二次世界大戦（1941年 参戦）

アメリカの拡大の背景

1622～1890年　インディアン戦争
1783年　13州がイギリスより独立
1846～48年　米墨戦争
1848年　ゴールド・ラッシュ
1861～65年　南北戦争
1869年　大陸横断鉄道開通
1898年　米西戦争

《土地の奪い取りと買い取り》



19 世紀ヨーロッパとアメリカ大陸

ナポレオン戦争（19世紀）
↓
スペインの中南米に対する支配力低下
独立運動の勃発
↑
オーストリアの干渉（ウィーン体制保守反動勢力）
英国の支援（資源輸入・工業製品輸出）

モンロー主義（1823年）

ヨーロッパの紛争に対して干渉しない
南北アメリカの植民地化を阻止する
ロシアの南下を阻止する
} 《アメリカの縄張り宣言》
↓
米墨戦争、米西戦争、ハワイ併合、対比戦争《縄張りはアメリカ大陸に限らない》

３．アメリカ的思想の源泉

自由主義（弱肉強食的）
モンロー主義（孤立主義）
イデオロギー（対共産主義）
市場原理主義（新自由主義）
} 国益の追求（国益≠全国民の利益）

第二次世界大戦後、20カ国以上を無差別爆撃してきた国

中国（1945～46）
朝鮮（1950～53）
グアテマラ（1954, 60, 67～69）
インドネシア（1958）
キューバ（1959～60）
ベトナム（1961～73）
コンゴ（1964）
ラオス（1964～73）
ペルー（1965）
カンボジア（1969～70）
ニカラグア（1981～90）
エルサルバドル（1981～92）
グレナダ（1983）
レバノン（1984）
リビア（1986）
パナマ（1989）
イラク（1991～2011）
スーダン（1998）
アフガニスタン（1998～2021）
ユーゴスラビア（1999）

普遍性の原理からの逸脱

他者に求めることを自己にも適用する
［例］国際原子力委員会（IAEA）による核査察をすべて拒否しているただ一つの国

４．対テロ戦争という欺瞞

911はなぜ起きたのか？
エネルギー産業、軍産複合体の暗躍

スクール・オブ・ジ・アメリカズ

米州学校（School of the Americas: SOA）
ジョージア州コロンバスのフォート・ベニング基地内
2001年、The Western Hemisphere Institute for Security Cooperation
（西半球安全保障協力研究所）に名称変更
SOAとWHINSEC、中身は同じ

ドキュメンタリー「暗殺者学校」（約14分）

沖縄（トリイ・ステーション）

米陸軍第一特殊部隊群第一大隊（通称グリーン・ベレー）に訓練された
フィリピンやインドネシアの国軍兵士が人権・環境活動家を誘拐、拷問、暗殺

9月11日だった…

9月11日だった。意を決した数人のパイロットによって異常な針路をとった飛行機が、彼らの憎む政治体制のシンボルを壊滅すべく、大都市の中心部に向けて突進した。瞬時の爆発、四方に飛び散る破片、地獄の轟音の中で崩壊する建物、愕然として瓦礫の中を逃げまどう人々。そして、この惨劇を生中継するメディア…。2001年のニューヨークではない。1973年9月11日、チリのサンチャゴだ。

アメリカの後押しで、ピノチェト将軍が社会主義者サルバドール・アジェンデに対してクーデターを起こし、空軍が大統領官邸を集中砲火した時の模様だ。数十名が死亡し、以後15年にわたる恐怖政治が始まった。

ニューヨークのテロ事件に巻き込まれた無実の被害者に同情するのは当然であるにしても、アメリカという国までが（他の国と引き比べて）無実なわけでないことは指摘せざるを得ない。ラテン・アメリカで、アフリカで、中東で、アジアで、アメリカは暴力的で非合法的な、そして多くは謀略的な政治活動に加担してきたではないか？　その結果、大量の悲劇が生まれた。多くの人間が死亡し、「行方不明」となり、拷問を受け、投獄され、亡命した。

（イニャシオ・ラモネ、『ル・モンド・ディプロマティーク』2001年12月号）

チリに社会主義政権が誕生

1970年9月、大統領選で人民連合のサルバドール・アジェンデが勝利
国軍最高司令官のシュナイダー将軍が支持を表明　←　極右による暗殺
主要産業を米企業から取り戻して国有化、教科書や教材を無料にして教育の平等化、
ミルクの無料配給で乳児の死亡率を下げ、貧しい一般民衆のための政策を次々と実施

反動勢力による執拗なテロ

甘い汁を吸ってきた大企業、大地主、右翼、協力関係にあった米国が政権転覆を目論む
1973年2月、右翼のテロにもかかわらず、総選挙で人民連合はさらに議席増
右翼や米政府は「民主的な手続き」によるアジェンデ政権打倒を放棄
放火、爆弾の投入れ、労働者と学生への銃撃など6月だけで91件のテロ
サンチャゴで百万人がテロに対する抗議集会
大司教も集会を支持

8月、右翼が全国30カ所で鉄道を爆破。石油パイプライン破壊で多くの工場が操業停止。送電線が切断され首都全域が電力ストップ。チリ経済は壊滅状態
9月4日、再び百万人がアジェンデ政権支持デモ
7日、アジェンデ大統領は政策の是非を問う国民投票を11日に公示すると宣言
軍上層部は国民投票阻止のため、11日の蜂起を極秘裏に決定
9日、米海軍が「訓練」という名目でサンチャゴの外港バルパライソに集結

9月11日

米国から300億円の軍資金＋7,000人のCIA工作員という圧倒的支援を受けた
ピノチェト将軍率いる4軍（陸・海・空軍・警察）がクーデター
抵抗する者たちはサンチャゴ国立競技場に連行され、拷問を受け、処刑された

この軍事クーデターによって・・・

4万人が虐殺、10万人が逮捕・拷問され、20万人以上が行方不明となった

映画『セプテンバー11』からケン・ローチ監督作品（約11分）

５．アメリカの世界戦略とは…

米国企業が原料・労働力供給や市場として進出し、資本投入で利潤を上げられるよう、
言いなりになる国家に対しては、政府を援助
ならない国家に対しては、反政府組織を援助

※ 援助＝資金、武器、軍事訓練、直接行動、etc.

アメリカという国は変わっていない

自由主義（弱肉強食的）
モンロー主義（孤立主義）
イデオロギー（対共産主義）
市場原理主義（新自由主義）

形式的には民主主義的手続による政策
国益の追求（国益≠全国民の利益）

＜参考＞

- グローバルピースキャンペーン、『テロリストは誰？』、ハーモニクスプロダクション、GPCVHS-01。
- ジャック・ネルソン=ポールミヤー、『アメリカの暗殺者学校』、緑風出版、2010年、ISBN 978-4-8461-1004-8。
- ウィリアム・ブルム、『アメリカの国家犯罪全書』、作品社、2003年、ISBN 4-87893-545-6。
- ジョエル・アンドレアス、『戦争中毒：アメリカが軍国主義を脱け出せない本当の理由』、合同出版、2002年、ISBN 4-7726-0299-2。
- ノーム・チョムスキー、『秘密と嘘と民主主義』、成甲書房、2004年、ISBN 4-88086-166-9。
- ハワード・ジン、レベッカ・ステフォフ、『学校では教えてくれない本当のアメリカの歴史 上・下』、あすなろ書房、2009年、ISBN 978-4-7515-2611-8／978-4-7515-2612-5。
- 『ル・モンド・ディプロマティーク』日本語版編集部（編）、『力の論理を超えて：ル・モンド・ディプロマティーク 1998-2002』、NTT出版、2003年、ISBN 4-7571-4051-7。
- ケン・ローチ、他、『セプテンバー１１』、2002年・仏、DVD：TFC・TBDL-1075。
- クリストファー・ヒッチンス、『アメリカの陰謀とヘンリー・キッシンジャー』、集英社、2002年、ISBN 4-08-781257-X。